

## C型肝炎の最新治療と痛くない肝癌治療

毎年約3万人の人が肝癌で亡くなっていますが、この肝癌の原因の70~80%がC型肝炎によるものです。C型肝炎ウイルスを排除するための治療は平成4年から始まりました。当初は大変副作用のつらいインターフェロン治療を6ヶ月から1年間続けても、ウイルスを排除できる可能性は5%未満でした。しかし、それから毎年のようにC型肝炎に対する治療は進歩し、ついに昨年末には、C型肝炎治療の中心であったインターフェロン注射をすることなく、2種類の飲み薬を6ヶ月間服用するだけで、80%以上のウイルスを消失させることのできる治療が始まりました。さらに今年は、3ヶ月間のみ薬を飲むだけで、95%以上ウイルスを消すことができるようになります。是非、周りにC型肝炎の患者さんがおられたら、病院行って検査や治療するように勧めてあげてくださいね。

### 早期発見・早期治療が大切です

C型肝炎ウイルスは1989年に発見されたウイルスです。そのため、このウイルスが発見される前に、感染している人の血液の輸血、汚染された注射器や注射針の使い回しなどによって感染がひろがったものと考えられています。日本には自分がC型肝炎ウイルスに感染していることを知らずに過ごしている人がまだ100万人近くいると言われていています。これは肝臓には痛みを伝える神経がないため「沈黙の臓器」とも呼ばれているように、病気が進んでいても自覚症状がないため、気づかずに見過ごされてしまうからです。肝炎があっても見過ごされてしまうと、病気は着実に進行してゆきます。そして症状が出た時には、既に進行した肝硬変や肝癌になっていたという事になりかねません。慢性肝炎を治療しないままでは10~20年後には約30~50%の患者さんが肝硬変になり、肝硬変になるとその10年後には60%以上の患者さんが肝癌へと進行してしまいます。病気が進むスピードには個人差がありますが、特に60歳を超えると肝がんになる確率が高くなるため注意が必要です。C型肝炎ウイルスを早めに発見して、ウイルスを排除することができれば、硬くなりかけた肝臓も、また少しずつ柔らかくなってゆくことが知られていますし、癌になる可能性も減ってゆきます。しかし、いったん進行した肝硬変、肝癌になってしまうと治療は大変難しくなってゆきます。C型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査で簡単にチェックできますので、検査をしたことのない方は是非一度確認してみてください。

### 最新の治療法

これまで、C型肝炎の治療の中心はインターフェロンでした。以前は連日あるいは週に3回の注射が必要であったものも、2004年には週1回の筋肉注射でよくなり、高熱や食欲低下、体のだるさなどのインターフェロン特有の症状もずいぶん軽いものとなっていました。しかし、それでもインターフェロン治療は血小板の減少をはじめとした副作用も多くあり、

決して楽なものではありません。しかし、ついに昨年末、インターフェロンを使わずに治療が可能な抗ウイルス薬が登場しました。

C型肝炎ウイルスには1型と2型という2つのタイプが日本ではほとんどなのですが、この新薬は1型で有効な薬です。画期的なお薬であり、従来の治療法と比べると副作用が非常に少ないのですが、肝機能に負担がかかることがあるため、肝機能の良くない人では使用しにくいなども問題もあります。またY93という部位の遺伝子に変異があると効果が低下するので、治療前には必ず確認する必要があります。

2型のウイルスに対しても、今年5月、わずか3ヶ月間だけ2種類の薬を飲むことで95%以上の高い確率でウイルスを消すことのできるお薬が登場しました。この薬は肝臓への負担も少なく、さらに画期的な治療法と言えるでしょう。

この秋には、1型のウイルスに対しても、治療期間が3ヶ月間だけで、肝臓への負担が更に少ないのみ薬が承認される予定となり、いよいよC型肝炎治療は最終段階となってきました。

#### **医療費助成制度**

ウイルスの排除を目的とするC型肝炎患者さんの医療費の負担額を少なくするために、通常の健康保険による診療に加えて医療費助成が行われています。患者さんが書類をそろえて保健所などに申請を行うと、都道府県の自治体が審査を行い、申請が認められると患者さんご本人に肝炎治療受給者証が交付されます。そして医療機関の窓口はこの受給者証を提示すると、肝炎治療にかかる医療費の助成が受けられますので、外来でご相談ください。

#### **宝塚市立病院での肝癌治療（痛くないラジオ波治療をしています）**

宝塚市立病院では、肝癌の経験豊富な肝臓専門医が今年の5月から就任し、積極的に肝臓癌の治療も行っています。最新の超音波機器が導入されることに加え、熟練した技術により、鎮静剤で「うつらうつら」した状態でも、ラジオ波針を目的の部位に正確に進めて、癌治療することができることで、痛くない治療を目指しております。